

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型  
平成 26 年度採択企画  
実施報告書

1. 企画名

小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日 2014」

2. 提案機関名

独立行政法人国立高等専門学校機構鹿児島工業高等専門学校

3. 提案企画の概要

理科教育の人材は多いが大きなイベントを行う施設が不足している地方に位置する鹿児島高専と、充実した設備を有し立地条件は良いが人材が不足がちな鹿児島市立科学館等の公設の教育関連機関がお互いに利点を補いながら、地域での創造的人材の育成と子どもたちの理科離れを食い止めるために理科教室等の事業を行う。また、音楽と科学の融合ショー等を行うことにより、科学に興味が薄いと思われる音楽などの芸術の異分野にも関心を高める工夫を行う。さらに、鹿児島高専の卒業研究等に触れることによって、地方の子供達に不足がちな最先端の研究に接する機会を設け、科学技術の未来に夢を抱いてもらうと共に、担当する学生のプレゼンテーション能力の向上にも繋げることを目的とする。

4. 企画の特徴

本企画は、大きなイベントを行う施設が不足している地方に位置する鹿児島高専と、科学実験教室を担当する人材が不足する公設の教育関連機関(鹿児島市立科学館、かごしま県民大学中央センター(かごしま県民交流センター))がお互いに補いながら、地域での創造的人材の育成と子どもたちの理科離れを食い止めるための事業を行うことが出来る点が特徴であり、利点である。

高専も、これから地域貢献が重要となるが単独では限界があり、施設や立地条件が整った公設機関との協力は意義があると思われる。また、本校学生が実験助手として説明することにより、小中学生も親近感をもって取り組むことが出来、学生もプレゼンテーション能力の向上に繋がっている。

特に今年度は、音楽と科学の融合ショー等を行うことで、科学に興味が薄いと思われる音楽等の芸術の異分野にも関心を高めてもらうと共に、鹿児島高専の卒業研究等に触

れることによって、地方の子供達に不足がちな最先端の研究に接する機会を設け、科学技術の未来に夢を抱いてもらうことを目標としているのが最も大きな特徴である。さらに、九州沖縄地区高専間の協力体制を活用することにより、九州沖縄の他高専担当により新たな視点による内容を設ける。

## 5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

鹿児島高専の強みを活かした活動で、地域の他のステークホルダーとの連携もうまくコーディネートされ、理想的な科学コミュニケーションの協働事業が行われた企画である。また、科学と音楽の融合ショーというテーマ設定の工夫、これまでの実績を踏まえた理科教室の実践など、いずれも順調に実施され、良好な成果を収めたことは評価できる。今後のさらなる発展に期待したい。

## 6. 実施者からPR・感想について

鹿児島市立科学館及びかごしま県民大学中央センター(かごしま県民交流センター)との共催事業として取り組んだ「鹿児島高専の日 2014」は、学内及び各施設等各方面の協力で無事に終了することができた。鹿児島市立科学館では、1,700名の入館者、六つの科学実験教室の受講者が75名で、都城高専からもテーマを提供して頂いた。かごしま県民交流センターでは、250名の参加者で、NHKの取材がありニュースで報道された。本事業は、6年連続でJSTの機関活動支援に採択され、学内の広報委員会委員等で実行委員会を立ち上げ、各部署のご協力を頂いた。鹿児島市立科学館とかごしま県民交流センターの公設の施設との連携により、それぞれの特徴を補い合いながらお互いの強みを十分に発揮することができ、「音楽(芸術)と科学の融合」の推進に寄与できたことを実感した。

本事業は大変重要な課題であり、次年度以降も問題点を改善しながら開催の準備を進めていくつもりである。



[演奏ロボットと吹奏楽部とのコラボ演奏]



[センサーを使ってゲームをプログラミング!]

以上